

地域環境資源のステークホルダーに関するシステム解析

農林生産学科 准教授

赤沢 克洋

研究成果の概要

・隠岐諸島におけるジオ資源の旅行誘引力に関する定量分析

世界ジオパーク認定を主因として強まったジオ資源の旅行誘引力を定量的に評価することを目的とした。データには、隠岐旅行者に対して実施したアンケート調査結果（2015年8-11月、 $n=1079$ ）のうち、誘引要因、発動要因、意識、旅行評価および属性の各変数を用いた。まず、誘引要因に対する潜在クラス分析の適用により旅行者層を抽出した。その結果から、①ジオ資源のみを誘引要因とする層が存在しないこと、②自然・景観を誘引要因とする「自然層」をベースとしながらジオ資源も希求する「自然ジオ層」が存在すること、③自然・景観、遺産文化、食宿泊、島情緒を誘引要因とする「通常層」をベースとしながらジオ資源も希求する「通常ジオ層」が存在することが明らかとなった。次いで、「自然ジオ層」あるいは「通常ジオ層」と他の旅行者層とで意識・旅行評価・属性等に関する差の検定（ t 検定または χ^2 検定）を行った。その結果、各層の特徴として、①「自然ジオ層」は、高齢者、ツアー旅行者、来訪未経験者であり、隠岐に対して関与の程度が低く、再来訪意欲と愛着が弱い傾向にあること、②「通常ジオ層」は、リピーターであり、自然・旅行・島への好感が強く、隠岐に対する関与、愛着、評価の程度が高い傾向にあることがわかった。さらに、自然ベース層あるいは通常ベース層からジオ資源希求に至るための条件として、①自然ベース層では知識に関する発動要因の希求、②通常ベース層では隠岐・島・旅行への希求が重要であることがわかった。（赤沢、古安）

・旅行行動に基づく地域への愛着とロイヤルティに関する構造分析

既存研究で十分に検討されていない「旅行地の人に対する愛着（対人好感意識）」と「関与概念に基づくロイヤルティ（ファン意識、マニア意識）」に注目しながら、旅行行動に基づく地域への愛着とロイヤルティに関する構造方程式モデルを同定することを目的とした。データには、①石見銀山滞在と②松江城を含む旅行に関する訪問者アンケート調査結果（2015年9-10月、 $n=545, 792$ ）を用いた。同定したモデル（図1、図2）から、①対人好感意識は、ロイヤルティを形成するがその働きが対物好感意識と比べて小さいこと、②マニア意識は、地域愛着から形成され、また利他行動意向に結びつきやすいため、構造と効果の点から重要な役割を果たすこと、③人に関わる旅行価値よりも物に関わる旅行価値の方が地域愛着やロイヤルティの形成に結びつきやすいことがわかった。（赤沢、殷、古安）

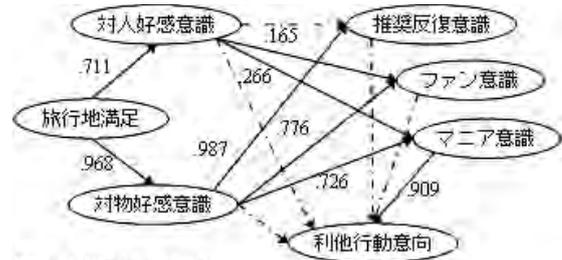


図1 特定サイトモデル

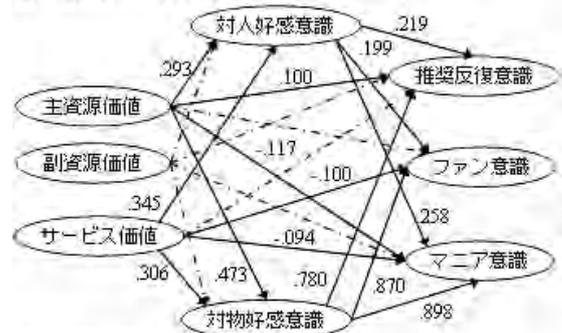


図2 特定旅行・価値モデル

社会への貢献・その他

得られた知見は地域資源のマーケティング戦略立案に役立つものである。すなわち、ジオ資源の旅行誘引力に関する知見からは、顕在的・潜在的なターゲットとそれらに応じた魅力づくり・プロモーションの展開方向を具体的に提案できる。旅行行動に基づく地域感情に関する知見からは、人的な地域感情、ホスピタリティおよびサービスの管理をサブシステムとしながら、物的な地域感情や旅行価値および質的なロイヤルティの管理に注力していくことが短期的な戦略方向となることを指摘できる。以上のように本研究の成果は、地域環境資源の観光資源化に寄与するものであり、隠岐諸島、石見銀山および出雲地域の交流人口拡大の一助となる。

以上の成果はミッション課題報告会（12月5日松江市、3月14日浜田市）でのポスター報告（3件）にて公開済みあるいは公開予定である。また、若干の追加分析を加えて近日中に学術誌に投稿する。